厚岸町の湿原周辺におけるケアリ属の好蟻性ハチ類相の解明

九州大学昆虫学研究室
梶原冴月・河合諒人・松浦公平

●好蟻性昆虫とは

生活の一部，またはすべてをアリに頼って暮らす昆虫のことを好蟻性昆虫（こうぎせいこんちゅう）といいます．アリは社会性をもつ昆虫で，巣に近づく外敵を攻撃する性質をもちます．しかし，好蟻性昆虫はあらゆる手段でアリの攻撃をかわし，アリの巣やその周辺で生活しています．そこでは，餌（えさ）が豊富にあり，アリの性質を利用して外敵から身を守ることもできます．

●研究の背景と目的

好蟻性のハチ類には，アリに寄生する種やアリ以外の昆虫に寄生しながらアリの巣で生活する種などがいて，その生活のしかたはとても多様です．しかし，これまでに日本で知られている好蟻性のハチ類は約 30 種にとどまっており，その種多様性は十分に解明されていません．北海道には，多くの好蟻性昆虫と関係をもつケアリ類やクシケアリ類が多く生息しています．特にケアリの巣では，1 つの巣から 20 種以上の好蟻性昆虫が見つかることもあり，北海道は好蟻性昆虫の多様性を解明する上で重要な地域だと考えられます．厚岸町にある別寒辺牛湿原の周辺は，自然が多く残された場所であり，まだ知られていない好蟻性のハチ類が生息している可能性があります． そこで私たちは，厚岸町の湿原周辺のケアリ属の巣を対象に好蟻性のハチ類を調べ，種多様性を明らかにすることを目的としました．

●調査方法

調査は 2025 年 8 月，9 月，10 月の 3 回行いました．調査場所は，水鳥観察館付近，別寒辺牛付近，愛冠岬の 3 カ所です．調査には，見つけ取り法とイエローパントラップ，マレーゼトラップという方法を用いました．イエローパントラップは，黄色の容器に水を貼って設置することで，色に引き寄せられた昆虫類を採集するトラップです．マレーゼトラップは，飛翔する昆虫が障害物（しょうがいぶつ）にぶつかって上へのぼろうとする性質を利用したテント型のトラップです．採集した好蟻性のハチ類は大学に持ち帰り，学名（がくめい）を調べました．

●研究結果および考察

今回の調査では，未記載種も含めて 4 種の好蟻性ハチ類を採集しました（図 1）．このうち，北海道でこれまでに記録があった種は 1 種のみでした．残りの 3 種は，日本未記録種 1 種，北海道未記録種 1 種，未記載種 1 種でした．今回調査を行わなかった別の場所や，6 月・7 月にも調査を行うことで，さらに多くの種が発見できる可能性があります．

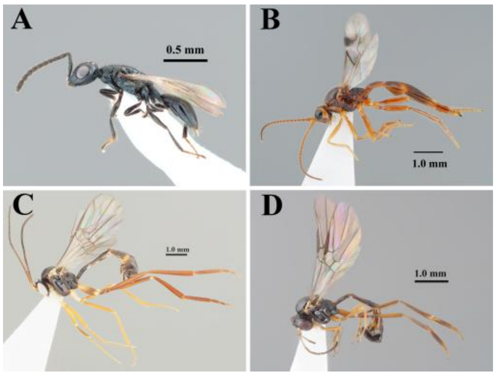

図 1．調査で採集された好蟻性ハチ類．